

令和 7 年 2 月 1 4 日

各 位

公益財団法人 大山健康財団
理 事 長 神 谷 茂

令和 6 年度「第 51 回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第 7 回竹内勤 記念国際賞」受賞者並びに「第 51 回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和 6 年度の「第 51 回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第 7 回竹内勤記念国際賞」受賞者各 1 名、並びに「第 51 回学術研究助成金」受贈者 10 名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成 30 年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、真菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、各賞並びに助成金の贈呈式は令和 7 年 3 月 25 日（火）午前 11 時 30 分から霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館（東京都千代田区霞が関 3-2-1）で執り行います。

記

令和 6 年度「第 51 回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受 賞 者】 おしたに ひとし
押谷 仁

東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 教授

国際交流支援室 室長

感染症共生システムデザイン学際研究重点拠点 拠点長

医師 医学博士 （満 65 歳）

【業績内容】

押谷 仁氏は、1991 年から 1994 年まで、国際協力事業団（JICA）の専門家として、ザンビアでウイルス学の指導を行われました。

1999 年 8 月から 2006 年にかけては、フィリピンのマニラにある世界保健機関（WHO）西太平洋地域事務局で感染症対策アドバイザーとして勤務され、赴任中の 2002 年には重症急性呼吸器症候群

(SARS) が発生し、同僚のカルロ・ウルバニ内科医と共に事態収拾への対応を行われました。2003 年 7 月に WHO が封じ込めを宣言するまでに、8,000 人が感染し 800 人近くが命を落とされました。その結果、当初は押谷氏とスタッフ 1 名という小さなプロジェクトだったのが、30 名を超えるスタッフと巨額の予算がつく大きなものになりました。

2005 年 9 月より東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授を務められ、フィリピン、モンゴル、インドネシア、カンボジア、ザンビア等のアジア・アフリカを研究フィールドとして感染症研究を行われると共に、2017 年 7 月より宮城県感染症対策委員会委員、2018 年より、同新型インフルエンザ対策アドバイザーチーム委員、2018 年 5 月より東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議委員長、2018 年 8 月より内閣官房委員 新型インフルエンザ等対策有識者会議構成員、2020 年 3 月 26 日より同基本的対処方針等諮問委員会構成員を務められています。

令和 6 年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 四津 里英

デュレーン大学・熱帯医学公衆衛生学科 准教授
国立国際医療研究センター病院皮膚科 客員研究員
長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス研究科 客員准教授
医師 国際保健学博士 (満 45 歳)

【業績内容】

四津里英氏は、皮膚科医としての豊富な経験を有するだけでなく、グローバルヘルス研究および政策立案においても深い知識を持ち、この分野で世界的なリーダーとして活躍されています。特に WHO が 2022 年に策定した「皮膚関連の顧みられない熱帯病（皮膚 NTDs）の統合的戦略」の筆頭著者として重要な役割を果たされました。この戦略は、ハンセン病やプルーリ潰瘍、リンパ系フィラリア症など、早期発見と治療が不可欠な皮膚 NTDs に対する効率的な取り組みを強化し、「皮膚の健康を全ての人に」を目指すものである。四津氏の実践経験が反映されたこの政策は、特に開発途上国において高く評価されています。

さらに、WHO の「皮膚 NTDs 国レベルの統合ワーキンググループ」の代表や「NTD NGO ネットワーク 皮膚クロスカッティング グループ」の代表を務められ、WHO Global Leprosy Program の技術顧問グループメンバーとしても活動されています。これらの役職を通じて、国際保健政策の形成と技術支援において、世界各国の保健機関や専門団体との連携に貢献されています。

また、アフリカやアジアの多くの国々（コートジボワール、カメルーン、ガーナ、コンゴ、ナイジェリア、タンザニア、マダガスカル、フィリピン、キリバスなど）で若手専門家の育成に尽力され、彼らが地域医療の向上に貢献する基盤を築いておられます。

以上のように、広範な実績と経験は、今後も国際的な貢献を拡大させる強い可能性を持っています。このような Neglect された研究や医療領域で活躍する女性医師を本賞で激励することは、世界の皮膚 NTDs で苦しむ人たちに光を与えると同時に彼らの大いなる希望となることでしょう。

令和 6 年度「第 7 回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】高橋（松本）エミリー ルイーズ 明子

国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所 熱帯医学・マラリア研究部
客員研究員

聖路加国際大学公衆衛生大学院 国際保健学・医療人類学・保健行動科学 講師
保健学博士（東京大学）（満 43 歳）

【業績内容】

高橋（松本）エミリー ルイーズ 明子氏は、東京大学大学院博士後期課程時代から、熱帯病であるマラリアの制圧に繋がる方策に強い関心を持たれ、学位論文として「フィリピン・パラワン州におけるマラリア顕微鏡検査技師の役割と限界」と題する論文を発表されています。この論文は「2014 年度日本国際保健医療学会奨励賞」の受賞に繋がっています。即ち「パラワン州のマラリア流行村に配置されたマラリア顕微鏡検査技師の感染予防啓発活動を強化し、地域住民による予防行動を強化する方策がマラリア再感染率の減少、ひいてはパラワン州全土のマラリア制圧につながる社会科学技術戦略として有用である。」ことを実証したことが高く評価されたものです。

2011 年 9 月～11 月に WHO 西太平洋地域事務局において、結核・ハンセン病対策課でインターンとして勤務された後、2013 年に国立国際医療研究センターに入職されてからは、マラリアの行動科学の研究に携わり、現在は地球観測衛星データを用いた空間疫学研究に注力されています。これまで、①「ラオスの温暖化とマラリア」、②「Impact of precipitation on the prevalence of schistosomiasis mekongi in Lao PDR」、③「Deforestation inhibits transmission in Pao PDR」等の論文を発表されています。

③の論文で「マラリア媒介蚊生息域は、気候や植生に大きく影響を受ける。ラオスでは森林面積が増加するとマラリア罹患者が増加する傾向が示唆された。ところがラオスのマラリア流行地であるアタプー県プーボン郡では、2000 年～2017 年にかけて森林面積が減少しているにもかかわらず、マラリア患者数が増加していた。この原因を探るため、この 17 年間の地球観測衛星データ（植生）を用いてマラリア患者数の増加に寄与する因子の推定を試みた結果、2009 年以降、森林面積が増加したエリアが確認され、それらは全て 0.5Km 四方に区画された人工林であり、特に 2010 年～2012 年区画整理後の植林が顕著に増加し、その期間、同郡内のマラリア患者数も増加した。」として、森林面積の増加とマラリア罹患者の増加は相関があることを証明されました。

令和 6 年度「第 51 回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	研 究 課 題	助成額 (円)	選考分野
うわみの よしふみ 上 養 義典	慶應義塾大学医学部 臨床検査医学 専任講師	ステルス型新規 VRE 遺伝子の耐性機序解明とその臨床リスク評価	1 0 0 万	細 菌 学
えたに としき 恵谷 俊紀	名古屋市立大学大学院医学研究科腎・泌尿器科学分野 講師	腸内細菌叢の酪酸産生菌に着目した尿路結石新規治療薬の開発	1 0 0 万	細 菌 学

こみね たけし 小峰 壮史	国立感染症研究所ハンセン 病研究センター感染制御部 研究員	熱帯と温帯におけるプルーリ 潰瘍の病原菌の特徴と治療戦 略の最適化	100万	細菌学
さいき えりしや 齊木 選射	東京慈恵会医科大学 実験動物研究施設 助教	低体温療法による新規マラリ ア治療法確立のための基盤研 究	100万	寄生虫学
すぎ たつき 杉 達紀	北海道大学人獣共通感染症 国際共同研究所 助教	ポータブル NGS を活用した インドネシア野生動物が保有 する寄生虫の保有状況調査お よび感染環の特定	100万	寄生虫学
たなか しんじ 田中 真司	東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科 助教	腎神経が急性腎盂腎炎に及ぼ す影響の検討	100万	細菌学
ひこね まゆ 彦根 麻由	長崎大学熱帯医学研究所 ケニア拠点 助教	見過ごされる肺外結核の影響 ：結核高蔓延国ケニアにお ける後遺症の実態と生活への 影響を探る	100万	細菌学
まきうち たかし 牧内 貴志	東海大学医学部基礎医学系 生体防御学領域 講師	赤痢アメーバにおけるγ-セ クレターゼ複合体の全容解明 と情報発信機能の検証	100万	寄生虫学
まつむら たくひろ 松村 拓大	金沢大学 医薬保健研究域医学系 准教授	ボツリヌス菌の病原性におけ る毒素関連機能未知タンパク 質群の役割	100万	細菌学
わじま たけあき 輪島 丈明	名城大学薬学部 臨床微生物学 准教授	インフルエンザ菌の特性を利用 した細菌性肺炎に対する新 規治療基盤の構築	100万	細菌学
			1,000万	

以上

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局
〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202
電話 03-3614-7762
E-mail : ohfin@nifty.com